

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災で負傷(左手背部熱傷)した事例。
3. 体験した事例の中心的要素	火災防御中、炎上中の建物に近づきすぎたため、輻射熱で熱傷を負ったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	本人の危険に対する認知不足。 業務遂行の使命感。 手袋(ケブラー)の性能向上。(熱いと思った時にはすでに熱傷している)

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年9月17日 午後6時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：建物火災の現場。屋外から延焼防止のため放水中。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ●

○当事者A	年齢[21]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が [※] (何か [※])	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	火災出動する	
経過2	当事者A	現場到着する	
経過3	当事者A	ホース8本延長し防御活動をする	
経過4	当事者A	活動を終了し帰所。左手背部の痛みを訴える。	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。その他：業務達成の使命感

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

本人が熱いと感じた時には、すでに遅かった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

新人及び現場経験が浅い隊員には、一人にさせず、なるべく先輩の隊員をつけ、補助及び助言をするようにする。

○装備・資機材の対策について

年々、資機材の性能が向上しています。熱いと感じた時には、すでに内部は熱傷している場合があります。熱いと感じる前に退避、又は手袋を水で濡らす等の対策をする。

○活動環境の対策について

この事例ではなし。

○指揮・情報伝達の対策について

個々に無線機(署活系)を持たせる。指揮者は拡声器を使用する。また伝令員を設け、伝令させる。

建物火災で負傷（左手背部熱傷）した事例

